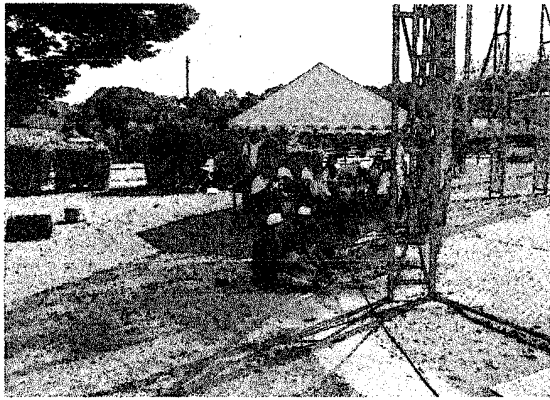


# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男



8月上旬、寝室の枕元 目覚まし時計のベルの予約を午前3時に予約して就寝。初めての公式で全国レベルのソフトボール審判への派遣の緊張のためか、ベルが鳴る前に起きてしまふ。毎日伝わる全国の猛暑の状況は、驚きた。東京では、猛暑

日の最長記録を更新。長野市では7月21日に36.5度、京都では8月2日に39.1度と、全国の主要都市でも最高気温の平年値を大幅に上回っている。

毎日、熱中症の救急車の搬送の情報も多く、大会関係者に迷惑をかけてはいけないとの思いで、2個のクーラーボックスに、麦茶や冷やしタオルを準備して自宅を出発。大町市内で同乗する、山崎巳良審判員と共に4時30分にスタート。7時の集合場所、伊那市宮野球場に向かう。夏休み期間中で、所要時間がかかったが、交通規則を順守した運転でも、1時間早く到着する。

大会は、第30回東日本大学男女ソフトボール選手権だ。男子が26校、女子が23校。東日本エリアからの参加だ。初めて訪れた伊那市宮野球場。施設内容は、うらやましい限りだ。一度、このグラウンドでの審判を体験したいと思ってしまう。

福井県など県外から派遣された4名の審判員と、県内の審判員57名に記録員や放送担当スタッフでの合同朝会。伝達された、大学からの秩序ある選手の試合運営の方針に好感が持てた。皆、緊張した顔つきだ。指定された、富士塚スポーツ公園Aグラウンドに移動する。

大会は、トーナメント方式、4回10点、5回7点差以上でコールドゲームの競技方式だ。9時に開始した初戦の関東地区の文教大学と北信越の長野大学の試合の、一塁塁審を担当。実力の差もあり、一方的な攻撃が続く。2時間を過ぎ、試合に。試合結果は、38点対0点。実力が歴然の両チームだが、真剣に取り組み選手たちを昇っていると、本当にソフトボールが好きなのだろうと感じてしまふ。

続くの第2試合、東京の早稲田大学と関東の城西大学の試合の三塁の塁審を担当。部員数も多く、熱戦だ。両軍ベンチからの声援

は、青春のものだ。1点差を返る攻防は、最終回の7回まで続き、城西大学が7回表に1点を上げたのだが、その裏劇的な二塁打で、2点を取り早稲田大学が勝利。終了時間は、午後2時に。しかし、緊張が続く全国大会レベルでの塁審の体験は、貴重なものになった。5時間にも及ぶ塁審体験は、初めてだったが、給水対応もあり、何とか乗り切る事ができた。連続で対応した審判員の中には、体調を崩して交代する者も。高齢化が感じられる審判員、新たな人材を期待してしまふ。

## 地域内にレベルの高い競技施設が必要な事について考えてみませんか

今月18日から20日、白馬村で開催される第7回HAKUBA・CUP大学女子ソフトボール2015。昨年より更に1チーム増えて、東京国際大、関西大、金沢学院大、国際武道大、東京聖土大、清和大学、岐阜経済大、

奈良文短大・大阪青山大・山梨学院大・新潟短大・日本福祉大・大阪国際大・至学館大・東海大・松本大の16チームに、神城断層地帯で野平グラウンドの使用が困難になり、新たに、関係者の理解で、白馬高グラウンドと若倉グラウンドを使用。毎日6コートを使用する試合運営に、県内外から毎日30名の審判員が担当。是非、大勢の皆さんの試合観戦

での大声援をお願いします。県内各地へ、審判員として派遣されるが、白馬エリアのグラウンド施設は、決して満足されるもので無いことも確かだ。行政や議会関係者も、この機会に実情を見聞してほしい。試合用具やホームランネットは、松本大学や長野県ソフトボール協会の北信支部と中信支部からの借り上げ。大会役員や選手

の濃淡の差が聞きこえる。白馬駅前周辺には、アウトドアスポーツ関連の店舗の営業が続く、アウトレットへの関心も高くなってきている。現状を安易に結びつけた観光戦略ではなく、今こそ受け皿の施設整備に本腰を入れるべき、との議論と行動が築かれるアウトドアスポーツのメッカの地域となる事を期待したい。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・森上白馬村)

ソフトやイス・机も行政や民間団体からの借り上げ。伊那市での大会には、会場ごとに責任者が常駐、必要なものを素早く対応している現状がうらやましい。

松川・姫川合流周辺や松川河川敷周辺には適地もあるはずだ。現在の施設の改良も大切だが、新たな場所グラウンドに適した土を、盛り土し、関連施設を整備すればと考えてしまふ。また、厳しい農業政策に向き合う、農地の活用も考えられるだろう。

この夏の大北地域の観光関係者、個々に